

第 24 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会 (ホール審査) 総評 大学生部門

●審査員 A

久しぶりの大学生部門を聴きましたが、全体のレベルは高かったと思いました。皆さん、指さばきは何とも見事に動いておられる。しかし速ければよいのではなく、音の動き一つ一つにもショパンの心、歌を聞き取って欲しいと思いました。グリッサンドのように、ただ上がったり下がったりではなく、一つの上行にも、小さくひねってみたり大きく跳躍したり、こまやかな動きの変化、和音の微妙な変化と転調、もっともっと繊細な耳と感覚を総動員して、丁寧に楽譜からショパンの言わんとしていることを引き出してほしいと思いました。

もう一つ、このコロナ禍で、レッスンやコンクールの審査も動画で行われたりしたので、皆がデジタル音になってしまったことが原因なのか簡単には結論付けられないでしょうが、音質（柔らかな響き、硬い響き、強弱の幅等々）への配慮が疎くなっているように感じます。やはり少しでも早く生の音が聞け、その美しさを感じ、見出すことができるように、もっと音に対して、敏感に聞き分けられる耳と心を取り戻してほしいと願うばかりです。

●審査員 B

1. もっとアーティキュレーションに意識を払いましょう。アーティキュレーションは、音の役割やその音が小節の中でどの部分に位置するかとも関わっています。
2. フォルテの部分では、鍵盤を上から押さえつけたり叩いたりしないでください。強弱によって、深い打鍵や軽い打鍵など変化をつけましょう。
3. いつも腕と指先が繋がっているという感覚を忘れないように。
4. 決して肘から弾かないように。
5. ピアノやピアノニッシモの音量の部分であっても、いつも豊かな響きの音で弾きましょう。また、いつも音楽で表現することを忘れないように。

●審査員 C

下記のような点について更に工夫して頂ければと思います。

- ・メロディラインの音の響かせ方
- ・より色彩感を生み出せるように。
- ・p と pp や、f と ff の間にも、もっとグラデーションを作れるように。
- ・もっとも重要な声部とそれ以外の声部の適切なバランスを探してみましょう。
- ・拍子感もしっかりコントロールしましょう。

●審査員 D

全体的な印象として、もちろん皆さんとても一生懸命弾かれていますのですが、そこで演奏として表現している音楽のハーモニーやフレーズ、リズムや拍子感といった基本となる部分を楽譜から読み取れていない人が多い感じがしました。聴く人の心に深く自然に染み入るには、その曲を弾きたいという情熱とともに、そのような基本事項をきちんとおさえて欲しいと思いました。ミスタッチではない明らかな譜読みのミスが散見されたのも残念です。

●審査員 E

アジア大会だけあって、最後まで残られた優秀な方々で聞きごたえがありました。

- ・メロディーが大きくフレージングされているか？
 - ・リズムの重軽を感じて呼吸しているか？
 - ・左右のかみ合わせを聞いて、音を立体的に組み合わせてハモっているか？ハーモニーのつくるフレーズ、ハーモニーの色の違いを味わっているか？
 - ・音楽（=Chopin の心情）を楽譜から読み取って解釈して、どれだけ語れるか？何を表現しているのか？表情のある音をつくられているか？
- を重点的に聞かせていただきました。

●審査員 F

響かせるのに難しいホールでしたが、後半で楽器をよく鳴らし、歌えている演奏が聴けてとても嬉しく思いました。ホールで演奏するときは、きちんと鳴らすこと、音色の方向性を色付けすることに気を配りましょう。